

学力調査結果 【2年生】

(1)全体を通して

2年生は東京都の「児童生徒の学力向上を図るための調査」(平成26年7月実施)の結果を分析しました。

5教科すべてにおいて、東京都の平均正答率を上回る結果でした。内容を観点別にみると教科の内容では「知識・理解」の正答率は全教科65%以上でしたが、「思考・判断・表現」と「技能」の観点やや低いという結果でした。また、読み解く力に関する内容については、「読み取る力」「解決する力」が都の平均は上回っているものの十分ではありませんでした。

その原因としては、学習の中で得た知識を、十分に活用できていないということが考えられます。授業の中で得た知識を活用するために、日頃から基本問題を解くことに限らず、応用問題を解くことや発表する機会を多く設ける必要があると考えます。

| 2年 | | 平均正答率 | | 備考 | 分析 |
|-----------------|--------------|-------|------|----|--|
| | | 本校 | 都 | | |
| 国語 | | 62.2 | 60.1 | | 「教科の内容」「読み解く力に関する内容」の両方も都の平均をそれぞれ約2%上回っている。これは朝授業や毎時間の漢字の学習など基礎基本の徹底、また単元毎に意見文や感想文を書く授業を行い、書く習慣を身に付けさせた成果だと言える。観点別に見ると、「関心・意欲」「話す・聞く」「書く」観点は都の平均を上回っている。「知識・理解」「読む」は都の平均と同程度である。この結果から、もう少し読書の習慣を身に付けさせ、語彙力や主旨を読み取り、要点をまとめる力を向上させる必要がある。 |
| 観点別 正答率 | 国語への関心・意欲・態度 | 58.1 | 46.8 | | |
| | 話す・聞く能力 | 65.9 | 64.1 | | |
| | 書く能力 | 55.2 | 48.2 | | |
| | 読む能力 | 68.1 | 68.8 | | |
| 言語についての知識・理解・技能 | | 65.7 | 66.0 | | |

| 2年 | | 平均正答率 | | 備考 | 分析 |
|-----------------|-----------------|-------|------|----|---|
| | | 本校 | 都 | | |
| 社会 | | 62.4 | 57.7 | | 内容別で見ると、北アメリカ州の地形の断面図や、地図やグラフを用いての土地利用の変遷の読み取りなどの内容が低い傾向にあった。原因としては、資料から必要な情報を読み取り、表現する力を養えるようなワークシートに取り組ませていなかったことが考えられる。ワークシートにおいて、文章記述の問題や資料からの読み取りの問題を増やす必要がある。 |
| 観点別 正答率 | 社会的事象への関心・意欲・態度 | 90.8 | 88.1 | | |
| | 社会的な思考・判断・表現 | 55.5 | 49.5 | | |
| | 資料活用の技能 | 74.0 | 69.3 | | |
| 社会的事象についての知識・理解 | | 63.5 | 57.4 | | |

| 2年 | | 平均正答率 | | 備考 | 分析 |
|------------|-------------------|-------|------|-------------|--|
| | | 本校 | 都 | | |
| 数学 | | 61.1 | 53.8 | | 内容別に見ると「数と式」における基本的な計算については、概ね理解できている。ところが、条件を処理することなどが十分でないため、問題解決につながらないことが多い。また、平面図形や空間図形の特徴や性質の理解が不十分であった。資料の活用の領域についてもしっかり身に付いていない生徒がいる。習熟度別の少人数指導の中で、基礎的・基本的な事項を用いた課題解決力を身に付けさせる必要がある。 |
| 観点別 正答率 | 数学への関心・意欲・態度 | 90.0 | 84.1 | 設問なし B問題 | |
| | 数学的な見方や考え方 | 43.3 | 28.9 | | |
| | 数学的な技能 | 60.5 | 54.9 | | |
| | 数量や図形などについての知識・理解 | 78.1 | 67.9 | | |

| 2年 | | 平均正答率 | | 備考 | 分析 |
|------------|----------------|-------|------|----|--|
| | | 本校 | 都 | | |
| 理科 | | 59.7 | 52.2 | | 内容別に見ると「化学分野」では、気体の発生のさせ方や性質など理解に関する問題の正答率が低かった。実験を重視し、考察をさせる力は身につけているが、知識を問うような項目では、小テストを行うなどして知識理解面を定着させたい。 また、どの単元においても、読み解く力に関する内容では、都の平均を6.6ポイント上回った。こちらは、観察・実験前の仮説や考察を個で考えさせ、小集団で話し合わせ、班ごとに発表させていく授業形態が効果的であったと考える。下位層への教え合い活動を取り入れ、さらに能力を高められるようにし |
| 観点別 正答率 | 自然事象への関心・意欲・態度 | 87.8 | 84.3 | | |
| | 科学的な思考・判断 | 54.6 | 46.5 | | |
| | 観察・実験の技能 | 60.1 | 51.7 | | |
| | 自然事象についての知識・理解 | 62.7 | 54.3 | | |

| 2年 | | 平均正答率 | | 備考 | 分析 |
|------------|---------------------|-------|------|----|---|
| | | 本校 | 都 | | |
| 英語 | | 56.9 | 54.7 | | 内容別に見ると全ての内容項目において、東京都の平均を上回る結果が得られた。しかし、「書くこと」においては、スペルと音が結びついていないことがあり、自己表現は特に課題が残った。「読むこと」に関しては、「解決する力」が23.3%とかなり低く、長文を読むことに課題が残った。また、英作文の力がやや不足していた。こうした「表現の能力」については、基本的な文法事項の定着からそれを活用するための練習の不足が考えられる。また、長文を読む機会を増やし、「理解の能力」の向上を図る必要がある。習熟度別の少人数指導において、簡単な長文から慣れさせていくなど指導を工夫する。 |
| 観点別 正答率 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 75.2 | 73.5 | | |
| | 外国語表現の技能 | 42.4 | 37.4 | | |
| | 外国語理解の能力 | 59.5 | 57.8 | | |
| | 言語や文化についての知識・理解 | 70.3 | 69.0 | | |